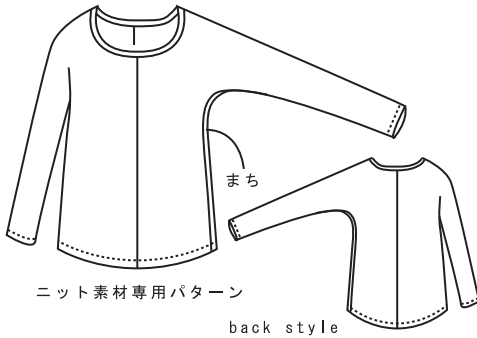


衿ぐりはタートルネックとトリブ、2種類のどちらかを選択可能です。



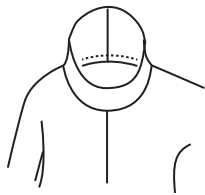
ニット素材専用パターン

back style

一見普通のドロップスリーブのTシャツ、パーツも最小限でありながら、変形マチの構造により、前袖（腕を下ろした時に自然に前に振れる事を考慮した袖）になっています。胸ぐせ（胸のふくらみに合わせるために取るダーツ分のこと）も処理された、立体的なパターンです。

アームホールにゆとりがあり、接ぎもないため、肩まわりがとても楽で動きやすい構造になっています。

シンプルな中に、工夫が詰まった1枚。縫製がとても楽で、枚数作って活用したいアイテムです。きちんと着たいから、S・M・L 3サイズ作り、同じ紙に印刷してあります。



タートルネックは、後中心の部分が高くなった、デザイン的なタートルです。しっかりした素材だと立ち気味、柔らかい素材だと外に折れて小さな後ろ衿のようになります。

寸法と用尺

パターン上の寸法です。お使いの素材により仕上がり寸法が違います。

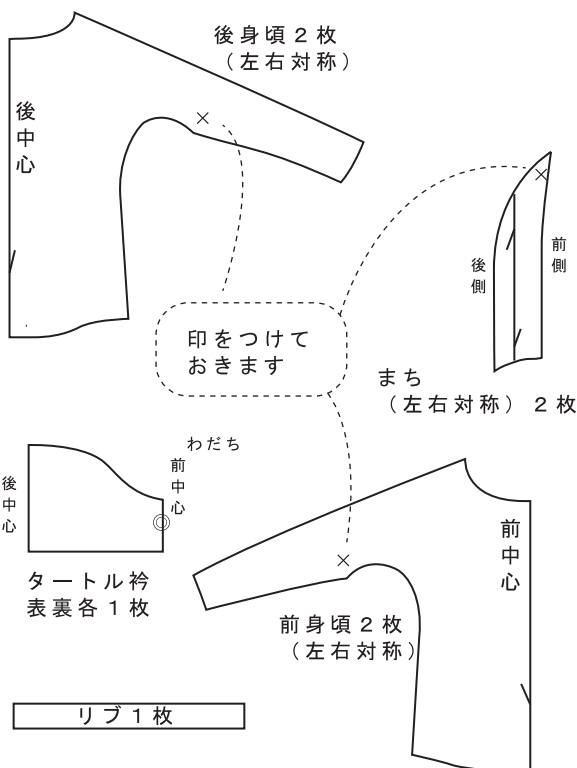
	バスト	着丈	用尺 (140cm巾)
S	90	60	1.8m
M	96	63	1.8m
L	102	66	2.0m

素材選び

天竺、スムース、接結など、中～薄手のトップス向きニット素材が適しています。

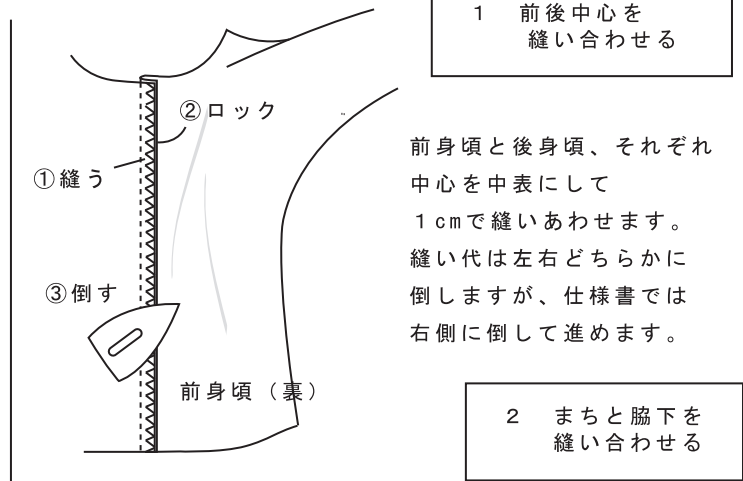
裁断と準備

縫い代込みパターンです。出来上がり線は表示なし。



リブ1枚

衿は2つのうちどちらか一つを選びます



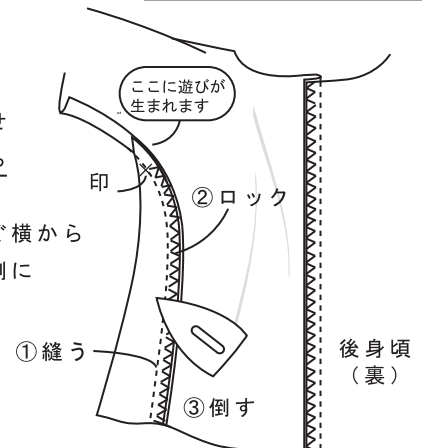
1 前後中心を縫い合わせる

前身頃と後身頃、それぞれ中心を中表にして1cmで縫いあわせませす。縫い代は左右どちらかに倒しますが、仕様書では右側に倒して進めます。

2 まちと脇下を縫い合わせる

後身頃とまちを中表にして縫い合わせませす。印同士をきちんと合わせ端までではなく、印から下まで縫います。縫い代始末も、印のすぐ横から下をロックし、後身頃側に倒します。

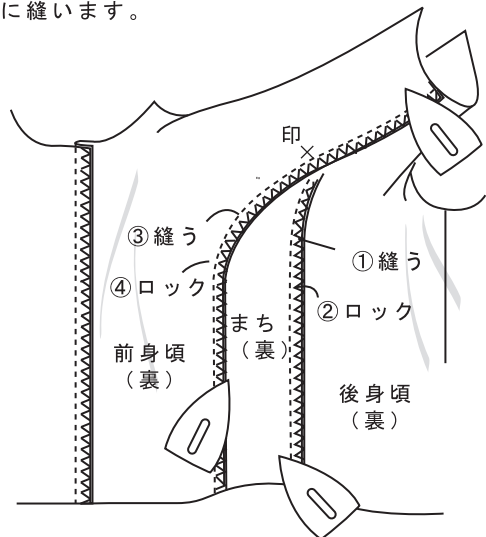
一番上のところは縫われていませんが大事なポイントです。



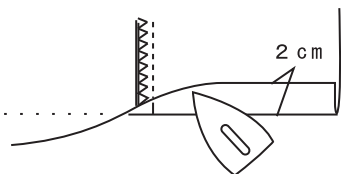
①縫う ②ロック ③倒す

前身頃と、後身頃についているまちをそれぞれ中表にし、袖下～脇まで縫い合わせます。それぞれ後身頃側、前身頃側を上にしてロック始末し、縫い代は後身頃側に倒します。左右同様に始末します。

3つの×印は、きちんと揃うように縫います。

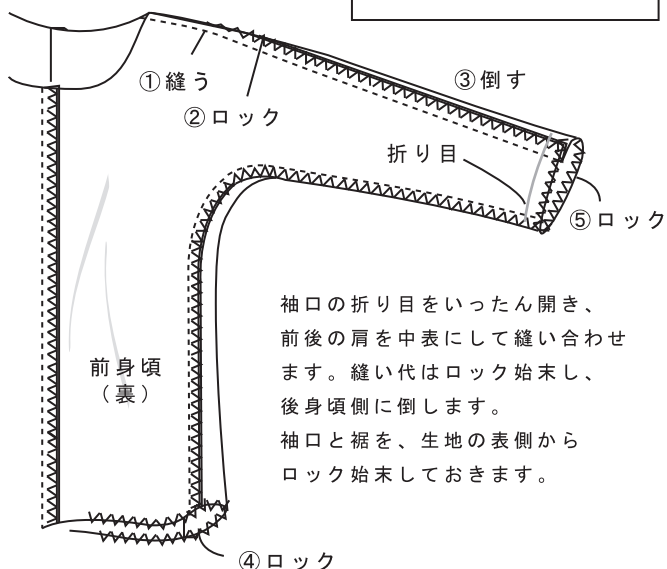


3 袖口アイロン



袖口は、輪の状態になる前に、出来上がりの状態に折っておき、折り目をつけておきます。

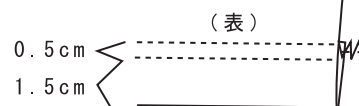
4 肩の縫い合わせ



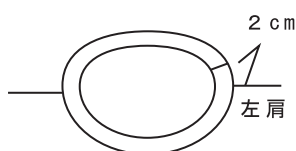
袖口の折り目をいったん開き、前後の肩を中表にして縫い合わせます。縫い代はロック始末し、後身頃側に倒します。袖口と裾を、生地を表側からロック始末しておきます。

5 袖口始末と裾始末 (同様です)

出来上がり線で折り上げてステッチで始末します。



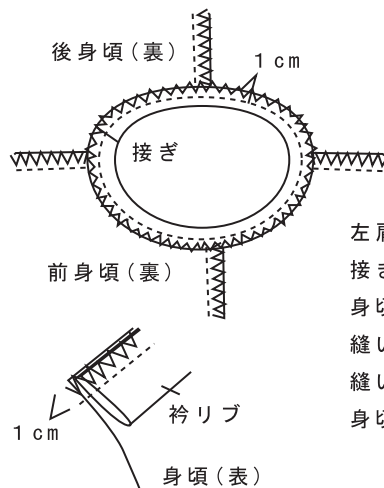
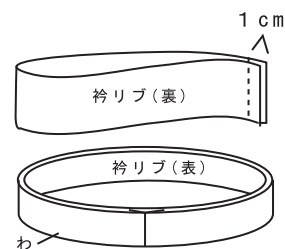
6 衿ぐり始末



衿ぐりの始末は2種類あります。リブつけとタートルネックです。どちらか一つの衿でお作りください。リブつけは左肩より2 cm 後ろ側に接ぎが、タートルは後中心に接ぎが来ます。

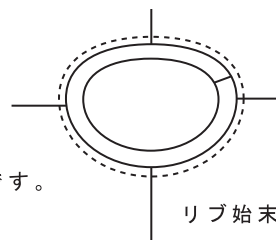
リブの場合。

衿リブを中表に輪にして縫い縫い代を割ります。表に返し二つ折りにします。

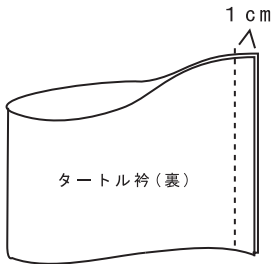


左肩より2 cm後ろに接ぎがくるように身頃と衿リブを中表で縫い合わせます。縫い代はロック始末し、身頃側に倒します。

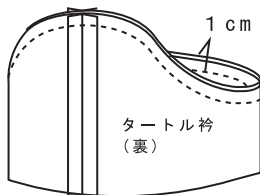
衿ぐりまわりに0.5 cmくらいのステッチで縫い代を押さえてもOKです。



タートル衿の場合。

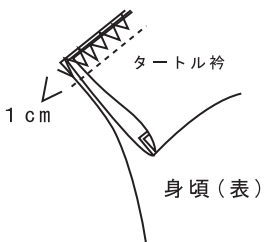
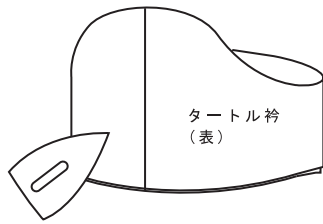


タートル衿を中表に輪にして
後中心を縫い代1cmで縫い
縫い代を割ります。
表裏、同様に作ります。

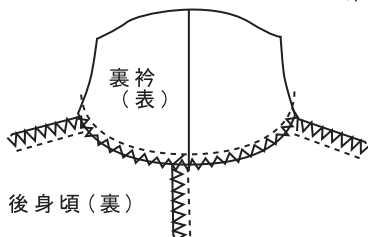


表衿、裏衿を中表に合わせ
上端を1cmの縫い代で
縫い合わせます。

表に戻してアイロンで
整えます。



身頃と衿を、中表で
縫い合わせます。
縫い代はロック始末し、
身頃側に倒します。
衿の接ぎ目は後中心に
来るようにします。



完成です。